

第5章 水環境保全の環境区の設定

本市は、多摩川に沿い、東京湾から多摩丘陵にかけて細長い形をしており、北西部の多摩丘陵や台地、南東部の多摩川と沖積低地、臨海部の埋立地で形成されています。本計画では、地形や地質等を考慮し設定した5つの環境区で、地域特性に配慮した施策を展開していきます。



図5 - 1 川崎市の水環境保全の環境区

表5 - 1 水環境保全の環境区分

環境区		地下水系	流域	主な地形	主な水環境
区域名	環境区分				
A1	台地・丘陵地 (鶴見川地下水系)	鶴見川	鶴見川	丘陵地・開析谷	湧水地(早野中の谷等) ・片平川・麻生川・真福寺川 ほか
A2	台地・丘陵地 (多摩川地下水系)	多摩川	主に多摩川 (北西側大半は鶴見川)	丘陵地(西半部) 台地(東半部) 開析谷	湧水地(生田緑地内、緑ヶ丘霊園内、 高津市民健康の森内等) ・平瀬川・矢上川・有馬川 ほか
B	扇状地性低地	多摩川	多摩川	扇状地性低地	湧水地(菅北浦緑地内等) ・三沢川・山下川・二ヶ領用水 ほか
C	低地部	多摩川 鶴見川	主に多摩川 (北東側大半、南西側一部は鶴見川)	氾濫低地 海岸平野	湧水地(久末緑地内等) ・二ヶ領用水・矢上川 ほか
D	臨海・埋立地	海	多摩川	埋立地	海域(東京湾)

2 A2 環境区: 台地・丘陵地(多摩川地下水系)

A2 環境区は、宮前区全域、麻生区、多摩区、高津区の一部が含まれる地域で、A1 環境区より標高が低く、地質が主に上総層や関東ローム層で構成される多摩丘陵の台地・丘陵地です。A2 環境区には、五反田川、平瀬川、矢上川、有馬川が流れています。高度成長期に首都圏のベッドタウンとして宅地化が急速に進みましたが、生田緑地や東高根森林公園等をはじめ、公園や緑地が多く存在しており、自然的土地利用面積が多く、湧水地も多数残っています。



図5 - 6 A2 環境区平面図

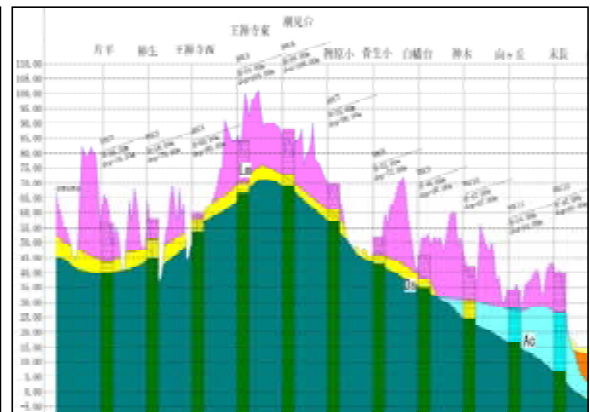


図5 - 7 A2 環境区の代表地層断面図



図5 - 8 A2 環境区河川平面図

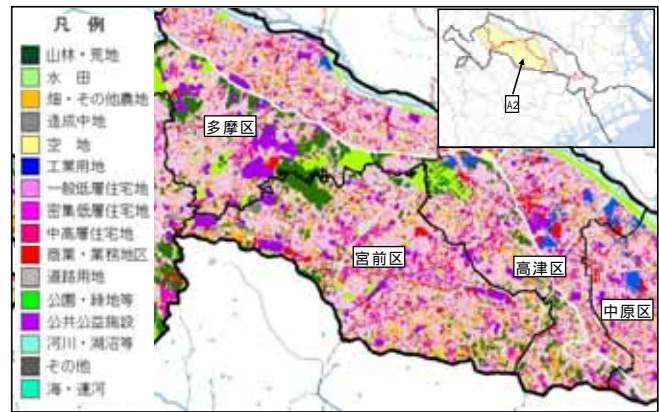


図5 - 9 A2 環境区の土地利用図

3 B環境区:扇状地性低地

B環境区は、多摩区北東部の多摩丘陵と多摩川に挟まれた低地であり、地質は主に上総層や沖積層(礫質土)、洪積層が分布しています。B環境区には、三沢川、山下川、平瀬川と二ヶ領用水(本川、宿河原線)が流れ、多摩川の伏流水を主な源とする良質な地下水が豊富なことから、水道事業の水源の一つとなっています。一方、農地が多く残っているものの、市街化も進行しています。



図5 - 10 B環境区平面図

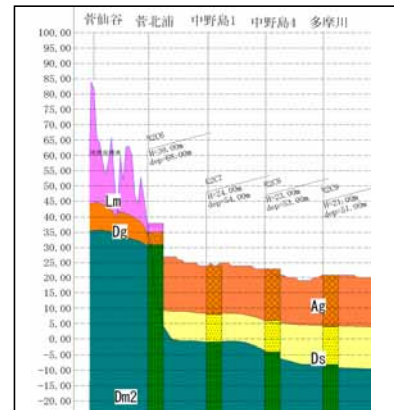


図5 - 11 B環境区の代表地層断面図

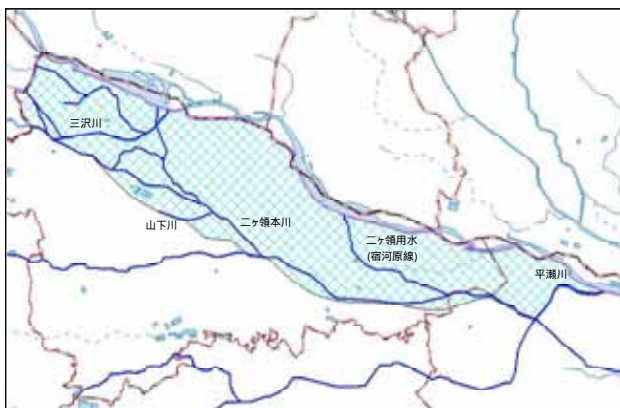


図5 - 12 B環境区河川平面図

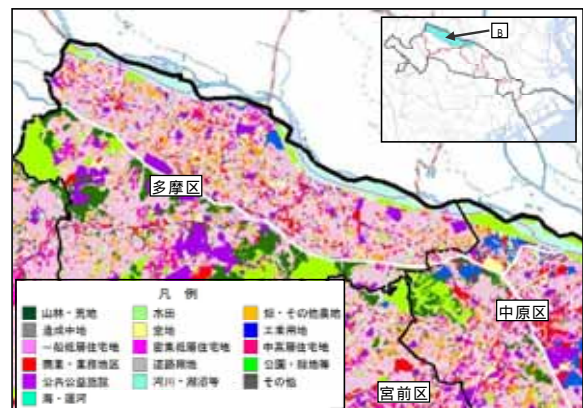


図5 - 13 B環境区の土地利用図

4 C環境区:低地部

C環境区は、中原区、幸区の全域及び高津区の南東部、川崎区の北西部を含んだ、多摩川と鶴見川に挟まれた沖積低地です。地質は、主に上総層や、上総層群を基盤として沖積層(粘性土・砂質土の互層)、洪積層が分布し、部分的に多摩川旧河道による埋没谷地形が伏在しています。C環境区は、自然的土地利用面積は少なく、全体的に都市化され、大規模な工業用地も分布しています。



図5 - 14 C環境区平面図

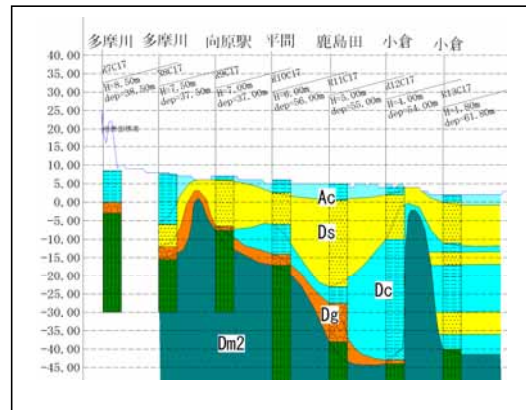


図5 - 15 C環境区の代表地層断面図

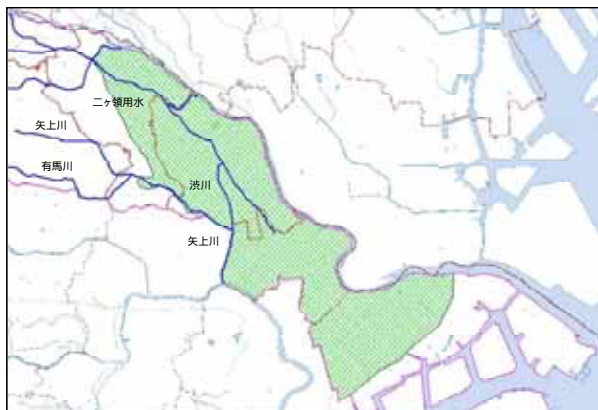


図5 - 16 C環境区河川平面図

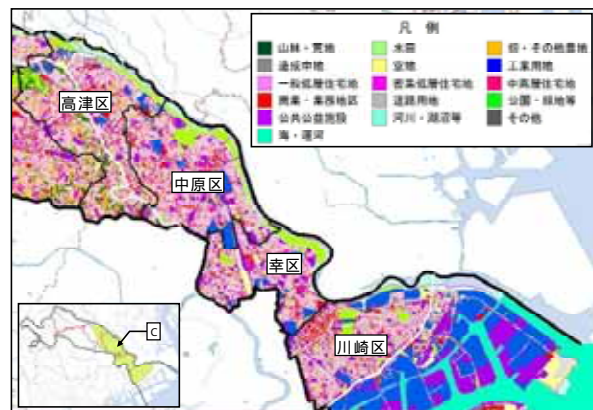


図5 - 17 C環境区の土地利用図

5 D環境区：臨海・埋立地

D環境区は、川崎区東部の産業道路から東側の地域で、多摩川の沖積低地と東京湾の浅瀬を利用して明治以降に埋め立てられた人工地盤からなる臨海工業地帯です。

地質は、主に上総層や、上総層群を基盤として沖積層(粘性土・砂質土の互層)、洪積層が分布しています。D環境区は、工業用地、商業地、公共公益用地の3種で大部分を占めています。



図5 - 18 D環境区平面図

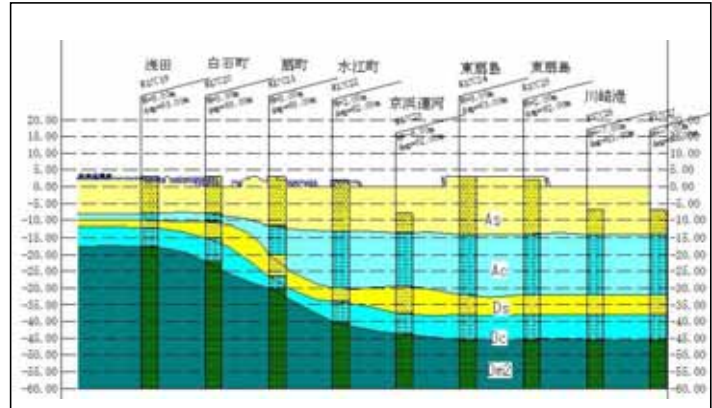


図5 - 19 D環境区の代表地層断面図



図5 - 20 D環境区海域平面図

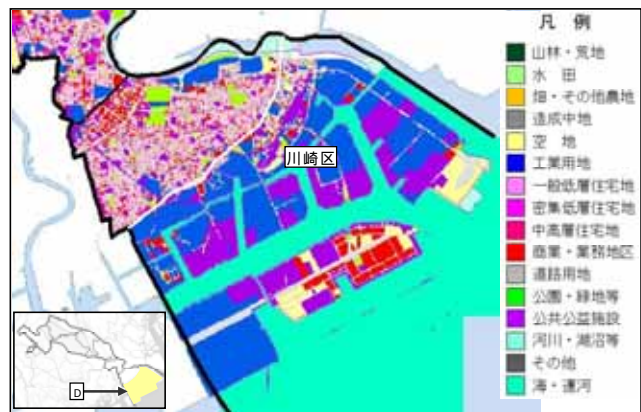


図5 - 21 D環境区の土地利用図